

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600537		
法人名	社会福祉法人希望の里		
事業所名	グループホームむつみ 1F		
所在地	〒059-1265 苫小牧市字樽前159-198		
自己評価作成日	平成25年2月1日	評価結果市町村受理日	平成25年4月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0173600537-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0173600537-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あいビル7階
訪問調査日	平成 25年 3月 21日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念は、入居者の皆様が、住み慣れた土地である苫小牧で穏やかに安心して生活を送っていただけることと掲げております。この理念に基づき日常生活支援はもとより、特に、かかりつけ医療機関への受診の際には、スタッフによる送迎を行い、包括的なケアを実践しています。また、敷地の側には小川が流れている等自然環境にも恵まれていることから、周辺を散策したり畑や花壇を作り楽しむことができます。建物については皆様にくつろいでいただけるよう畳の間を設けております。また、トイレを5箇所ご用意し、身体的なケアが必要な方も安心してご利用いただけるよう広めのトイレを設けております。また、隣接したゲストハウスも有り宿泊もできます。入居者様のみならずご家族様にも安心していただけるような介護サービスを目指し、常に意識の向上に努めています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

太平洋沿岸に広がる苫小牧市は海拔が低く、当該ホームにあっても海岸からは国道及びJR線を挟んだ立地となっており、津波に対する水害への気配りが見られます。万一の災害時に向けた堅牢な建物、臨場での避難などは消防署の指導を得て隣接の障害支援施設との協働で行われるなど利用者の安全を第一とした配慮を見ることが出来ます。次にこのホームの優れている点として、スタッフのスキルの高さです。長い時間をかけて利用者に寄り添い優しい言葉かけ、また、ソファに寛ぐ利用者との明るい会話で笑顔が生まれるお付き合いなど、利用者個々の状況にマッチした暮らしの支援が視えます。四季折々の色彩で彩られる自然豊かな中において、利用者の安寧を追及する代表者、ホーム長、スタッフの情熱を感じるホームを垣間見ることが出来ます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホールへ掲げるとともに、名札とともに携帯し、常に確認を行えるようにしている。	住み慣れた苦小牧の地で、安寧の暮らしを支援するという理念は、ホーム長を始めとするスタッフ全てが共通の目標として、日々の実践に邁進しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣に民家が少なく日常的な交流は少ないが、近隣の施設との連携や、ボランティアに來訪いただいたりと交流を深めている。	地域的な要因により、近隣の住民は少ない状況下にあります。隣接する障害者支援施設の利用者及びスタッフとの日常的な交流が続いています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトへの参加を実施した。また常に相談を受け入れる体制を整えている。またボランティアや実習生を積極的に受け入れている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の開催を実施しその都度ホームでの活動状況やホームでの生活状況の報告を行っている。	市の介護福祉課の職員、地域包括支援センター職員、少しは離れてはいますが出席くださる町内会長、そして家族が会議を構成しており、ホームの現況など報告し理解を得ています。今後は議事録の内容充実と家族への送付を検討しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加いただきホームの状況をお伝えしたり、必要に応じ相談を実施している。	市の窓口である介護保険課や福祉課を始めとする関係窓口とは、相談をしながら適切な指導を受けており、これからも更に連携を深めながら、サービスの質の向上に努めることとしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアを徹底している。内部研修などを通し指定基準の理解に努めている。	身体拘束をしないケア及び虐待防止の徹底化は、サービス会議などの機会を捉えてスタッフ間で徹底化を図るよう努めています。日常の慣れから生じる言葉かけなど心理的な虐待は、スタッフみんなで気配りをして防止に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の生活の中において常に身体的・精神的苦痛を与えないよう、心配りや気配りし、スタッフ間で連携しながら防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を通し理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書の提示とともに説明を実施している。また不明な点など気軽に問い合わせをいただけるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時はもちろんであるが、アンケートを利用しご家族様の意見をいただいている。	家族とは、訪問時や電話による会話の中から意見や要望を把握する努力が続けられているほか、独自のアンケートの実施による家族の意向把握に努めています。今後は意見箱の利用を会報を通じて啓発するなど広く意見を聞きながらホーム運営に反映しようと検討しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の場や、それ以外の場においても話しやすい雰囲気や環境を作っている。	毎月1回、カンファレンスを兼ねたサービス会議では、ケアの課題ばかりでなくホーム運営に関する些細なことも話し合われ、できることはスピード感を持って改善などに反映することとしています。これらはホーム長、サービス課長を始めとする風通しの良い環境づくりからくるものと思慮します。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々スタッフとの会話を行いながら処遇改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や外部研修への参加を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	苫小牧グループホーム連絡会への参加を行っている。また、その他の外部研修の場において交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様との面談を実施している。また可能な限り他事業所より情報提供をしていただくなどご本人様の状況の把握に努め、安心した生活を提供できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様との面談を行い、不安なことなどをうかがっている。また気軽にご相談をいただける関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様との面談の中で把握に努めるとともに、安心して生活を送っていただけるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしをともにすることで数多くのことを入居者様より教えていただいている。会話の機会を多く得ることで信頼関係を深めることができるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との連携を密にしながらご本人様のケアを行っている。また、ご家族様との会話の機会を多く持つことにより信頼関係をさらに深めることができるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様やご家族様からの情報により、関係を継続できるように努めている。また日頃より面会や手紙でのやり取りをされている方もいらっしゃる。	利用者の馴染みの理美容院への通いはスタッフが都度支援しています。また、個々の買い物は多岐に渡りますが、少しでも馴染みの関係の継続を維持しようとするスタッフの心意気が垣間見えます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々活動に参加をしていただけるよう声をおかけしている。また居室へ閉じこもることがないよう、その都度お誘いをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係を継続できるよう努めている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様との会話や暮らしぶりに中から意向の把握に努めている。また極力希望に沿った生活を送ることができるよう他機関への相談も含め検討を行っている。	認知症の進行により、利用者の思いや意向の把握が困難になる傾向にありますが、利用者との向き合いの時間を多く取りながら表情などにより察知してサービスに反映しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用時に情報収集を心掛けている。また入居後においてもご本人様やご家族様との会話の中で教えていただいている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のかかわりの中から把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ間にて情報の共有を行う中で定期的な見直しを行っている。	定期的に開催されるカンファレンスでは、担当スタッフからの日ごろの気づきが話され、ケアプランの見直しの是非や今後のプラン作りが検討されています。昨年からの課題である書式の検討は行われているものの解決には至っていません。	単なるサービス評価の記録ではなく、日常の利用者と寄り添う中からの情報こそ貴重であり、ケアプランに対するバックボーンとなることが肝要と思慮し、サービス記録の改良への着手を期待します。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録への記載を行い、またスタッフ間での会話の中で情報の共有を心がけている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の変化やご家族様の要望などにその都度対応できるようにしている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や買い物に出かけたりと希望に沿った外出を行えるよう支援を行っている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族の希望する医療機関へ実施していただけるようにし、また安心して医療機関への受診をしていただけるようかかりつけ医への受診をしていただいている。	利用者及び家族の希望により、これまでのかかりつけ医への通院を支援して喜ばれています。ホームではこれらかかりつけ医との連携を深めると共に重度化への移行時やターミナルケアへの相談を指導を受けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な訪問看護師への報告・相談を実施している。また急変時などに対応をしていただける体制を整えている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	先生から病状の説明がある際にはご家族様からの同意を得た上で同席させていただいている。また病院の相談員や病棟看護師への相談。報告に努めている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に話し合いを行うとともに、またそういった状況となった際にも改めてご本人様やご家族様の希望をうかがっている。	重度化や終末期に向けたホームの指針は、入居時の説明と共にその同意を得ています。また、重度化に際してはかかりつけ医との連携と家族を交えた相談の繰り返しが行われていますが、現時点ではホームでの看取りの実例はありません。	現在の利用者の中でターミナルケアへの移行もあり、スタッフ間でのスキルアップの必要性を感じます。今後、ターミナルケアが行われる例が多くなることに鑑み、スタッフのより高度なスキルアップが期待されます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修を実施し対応できるようにしている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	不定期に避難訓練を実施し、すべてのスタッフがかわられるようにしている。また近隣施設との連携に努めている。	隣接する法人傘下の障害者支援施設と協働して災害時の避難訓練を年数回実施しています。火災ばかりでなく津波による水害、地震などを想定した訓練を消防署の協力を得て協議検討されており、スタッフ全ての緊急対応の意識に強いものがあります。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人様の性格や個性を尊重し、その方にあった関わり方や対応を行っている。	スタッフの優しい言葉かけ、それとないトイレへの誘導、入浴時のプライバシーに気配りした支援など、いずれも利用者一人ひとりの人格を尊重した高度なサービスの支援を垣間見ることができます。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様が話しやすい雰囲気を工夫するとともに、信頼関係を大事にしている。その中でご本人様が思いや希望をお話くださるようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その目をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースに合わせ対応をさせていただいている。押し付けるのではなくご本人様の自己決定を重視しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服や化粧品の購入などご自分で選んでいただけるようにしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の能力に合わせて、会話をしながら楽しみながら準備などを行っている。	隣接の障害者支援施設の栄養士による献立及び調理された食事が供され、美味しい味付けに利用者の笑みが覗えます。利用者は食卓拭きや下膳など出来る範囲でスタッフと共に作業に参加しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人おひとりにあった食事を提供している。また食事以外でもその方にあった水分補給や間食をしていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お一人おひとりの状態に合わせてケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人おひとりの排泄のパターンをスタッフ間にて共有し、適宜実施している。	利用者の排泄パターンをチェック表により把握して、利用者の自尊心に配慮しながら、身体機能に応じて手を差し伸べたり、歩行介助を行いながら、トイレでの自立排泄に向けた支援が行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や献立の工夫を行っている。また主治医への相談をあわせて行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、その方の希望に沿って自由に入浴していただけるよう柔軟に対応している。	週3回を目標に入浴をお勧めしています。体調など利用者の様子を観察しながら、利用者の希望に添った入浴を楽しんでいただくこととしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれのペースに合わせて休息していただけるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人おひとりの内容をスタッフ間にて共有している他、その都度の服用について支援を実施している。特に内服薬の変更があった際には副作用などの留意点を主治医や薬局にて確認し、様子の観察を実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の趣味や嗜好などに合わせた支援をその都度行っている。夏場には自然環境を生かした菜園や花畑を作り気分転換を図りながら行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お一人おひとりの希望に合わせた外出を行えるよう努めている。	夏季間の好天時には、ホームの周辺での散歩、散策が利用者個々の希望により行われ、気分転換と共にストレスの発散と解消に努めています。寒さの厳しい冬季間にあつては、ホーム内の回廊を利用した歩行訓練が常時行われ、身体機能の維持を支援しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に沿った形で買い物や外出していただいている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿った形でやり取りをしていただいている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった装飾をしている。また清潔な環境を保てるよう清掃を実施している。入居者皆様ホールにてくつろいで過ごされている。	利用者が多くの時間を過ごす共用空間としての広々とした居間には大きなソファが置かれ、利用者同士、またスタッフとの会話を楽しんでいます。回廊からは吹き抜けに自然光が優しく注いで利用者の寛ぎの空間を包んでいます。身体機能に配慮した広いトイレや浴室などいづれも居心地の良い空間となっています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置し、くつろいだ雰囲気の中で過ごしていただいている。また小上がりを設置し、都度快適な生活を送れるよう配慮を行っている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット・テレビ・カーテン・タンス等備え付けのものを設置しているが、なじみのある家具や物などを持ち込んでいただけるようにし、居心地よく過ごしていただけるようにしている。	利用者の経済負担に配慮してホームとして設えたベット、タンス、カーテン、テレビ、洗面設備などある居室には、利用者の馴染みのものが持ち込まれ、部屋全体が落ち着ける空間となり、暮らしの中に潤いをもたらしています。家族と共に配置換えも試みる場合もあり、居心地の良いその人らしい居室となっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーである。また回廊式にし手すりを設けるなど安全に歩行していただけるようにしている。トイレを5か所設置し、その都度迷わずご利用いただけるようにしている。			